

二〇一七年度 茨城キリスト教大学入学試験問題

国語 (B日程)

(解答は解答用紙に記入すること)

I 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

A

「孤立死なんて毎月ありますよ」とマンション管理会社の社員は軽く笑いながら話した。この会社、都内にかなり多くの管理物件を持っているそうだ。そのいずれかから、毎月のように孤立死の報告があるという。彼もかつては報告があるたびにショックを受けていたのかもしれない。ただ、そのとき僕の前にいる彼は、薄笑いを続けたまま毎月発生する孤立死のことを語った。その異常な事態を笑い飛ばすことでしか自分の精神状態を保つたまま仕事ができない、ということなのかもしれない。理由はどうであれ、こんな社員を生み出してしまうような社会はどこかが間違っている、と感じた。マンションによっては壁の厚さが二〇センチしかない場合もある。壁にもたれながらテレビを観ている、その背中のわずか二〇センチ隣に、亡くなつてから三ヶ月も気づかれずに放置されている老人が横たわっている。それに気づかず生活し続けられてしまうというのは、つながりのなさもここに e、という気持ちにさせられる。わずらわしい人とのつながりはないほうがいいとはいえ、ほとんどの人がここまでつながりが分断された社会を生きたいと望んだわけではないだろう。

人とつながりにくい社会になったのか。確かにそういう側面もあるだろう。ただし、現代でもその気になれば人と人が知り合い、協力してものごとに取り組む機会はある。なくともつくり出すことはできる。特に人口減少時代には、そのきっかけが増えるだろうし、増やさねばならないと感じる。

B

後述する^(注1)とおり、日本の総人口は減るし、ハード整備^(注2)①ヘンチョウ時代は終わる。まちのことは行政にお任せ、とはいってられない時代がくる。となると、公共的な事業に住民の参加が不可欠になる。二一世紀は住民参加の時代だということになる。

ところが、この住民参加は二一世紀になって新しく登場した概念ではない。いまより人口がもつともつと少なかった江戸時代、日本の適正人口^(注2)②キボ

だと考えられる三五〇〇万人で日本の国土に人々が暮らしているときから、まちのマネジメントはそのまちに住む人たちによって行われていたのである。このことを「住民参加」と呼んでいたかどうかはわからない。きつと「参加」という意識はなかっただろう。自分たちのまちのことを自分たちでマネジメントすることは「当たり前」なことだったはずだ。いまではほとんど見られなくなったが、家の前の道のソウジ^③はそこに住む人たちがやったものだし、その道自体も地域に住む人たちが協力してつくったものだ。「道普請^{みちぶしん}」という言葉があるとおりに、かつてはみんな道をつくっていた。土を運ぶ人、水を運ぶ人、道を叩く人、石を積む人、食事をつくる人など、それぞれが役割分担して作業した。こうした作業を通じて、誰がどんな特技を持っているのかを相互に理解した。作業が終わったらみんな食事したり酒を飲んだりしてさまざまな情報を交換したり、楽しんだという。こうした作業や飲み会を通じて、地域のコミュニティはそのつながりを何度も確認し合っていたといえよう。

こうしたつながりが、地域に住む人たち同士の安心を生み出していた。具合が悪い人がいれればすぐにわかったし、みんながお見舞いに訪れた。仕事がなくなった人がいたら、みんなが食事を^fしに行った。次の仕事を見つけないのも手伝った。当然、結婚相手も地域の人たちが紹介してくれた。家のなかに引きこもる人がいれれば地域の人たちみんなが心配した。話し合っ、家の外へ出てくるきっかけをみんなで作ったものだ。

^g、道をつくるという作業を行政に任せるようになり、住民がまとまりをつくる機会がひとつ減ることになる。ほかにも、家の屋根を葺く^ぶ作業、冠婚葬祭など、住民が集まってやっていたことを誰かに任せるようになると、確かに便利な気がするものの、次第に個人がバラバラになり、人と人とのつながりが希薄化していくことになる。

C

こう書くとかつての地域コミュニティはいい点ばかりだったように感じるかもしれない。しかし、少し想像すればわかることだが、これほどのつながりは時として人をキウクツ^④にさせる。自分が何をしているのかが周囲の人にすぐ知れ渡る。少し派手なカツコウ^⑤をして出かければ、家に戻るところには近隣にその話が伝わっている。協同作業が多いため、しょっちゅう呼び出されるし、断りにくい。生活における自由はある程度制限されるわけだ。

日本の農村集落は特にこうしたつながりが強い場所だった。^h、江戸時代の年貢は組頭に対して定められるため、組頭は自分の組に所属する人たちから一定の米を集めねばならない。どこかの家が不作なら、ほかの家が少しずつ出し合っでも規定の年貢をかき集めなければならぬ。どこかの家がサボって米をあまりつくらないことになれば、ほかの家が迷惑するし、組頭も迷惑することになる。だから相互を監視することにもなる。あるいは隣の組に水を盗まれたら規定の米を納められなくなる危険性が高まる。水ドロボウ^⑥が出ないように水路を見張る係が必要になる。田んぼに水を入れる時期には、集落から交代で見張り番を出さねばならない。そのほか、家の屋根の葺き替えにしても、結婚式や葬式にしても、ひとつの家族で

はできない作業量である場合が多いので、地域に住む人たちが協力して執り行ってきた。こうした協同作業が多いため、自ずと地域コミュニティの結びつきは強固になった。

D

ところが明治以降、年貢がハイシ^⑦されて税金が個人に課せられることになった。組頭はみんなから税金を集める必要がなくなり、個人は国に税金さえ納めていけば隣人とながる必要もなくなった。さらに工業化が進み、農業ではなく工業に従事する人が増えた。農村部から都市へ出て工場で働くようになると、農業に比べて自宅の周りに住む人たちの協同作業は驚くほど少ないことに気づく。個人の生活にカンショウ^⑧する人が少ないことに気づく。「これは暮らしやすい」ということになる。ドアを閉めれば隣の人が何をしても関係ない。誰ともつながらない時間を確保することができ、自由が謳歌できる。さぞかし快適だったろうと推察する（もちろん、隣人との人間関係から解放されたものの、かつてにも増して工場や会社に縛りつけられていることに気づく日が来るわけだが）。

こうなると、生活も個人単位になっていくし、まちからも「協同の風景」が消えていく。「道普請」なんてナツかしい^⑨ことをやろうとする人はいない。道路というものは行政が専門家に頼んでアスファルトを敷いてくれるものだという認識になる。ソウジも行政が頼んだ専門家がやってくれるものだという話になる。道路にヒビが入ったり落ち葉がタまつて^⑩いたりすると、住民は行政に電話して専門家を派遣してもらおう。行政はすぐに対応する。住民はどんどん「お客さん化」するわけだ。かつて、いくつかの役所に「すぐやる課」なるものが誕生したことがある。住民から電話があったらすぐに対応するという課なんだという。「すぐやるべきかどうか」をしつかり考えないと、電話すればすぐにやってくれるだろうと思う人が増え、住民はますます「お客さん化」する。「集客都市」という言葉が流行^{はや}った時期もあったが、お客さんばかりを集めた都市になりかねない。つくるとすれば「i」すぐやる課^Jだろう。主体的にまちへと関わる人たちの意識を取り戻さねばならない。

（山崎 亮『コミュニティデザインの時代』より）

注1 「後述するとおり、日本の総人口は減る」とあるが、この人口減に関する「後述」は問題の文章中にはなく、その後に書かれている。

注2 「ハード整備」建物や設備などを整えること。

問一 傍線部①～⑩について、カタカナの部分の漢字に改めなさい。

問二 空欄A～Dは四つの大段落の小見出しに当たります。大段落の内容を表すのに、最もふさわしい小見出しをA～Eから選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|-----------------|-------------------|
| A | ア 孤立死をどう防ぐか | イ 孤立死を笑う社員 |
| ウ | つながりが分断された社会 | エ 人口は増やさねばならない |
| B | ア つながりのなかに生きる社会 | イ 道普請という知恵 |
| ウ | 個人がバラバラになる社会 | エ 行政に任せて良いこと、悪いこと |
| C | ア 地域コミュニティの悪い点 | イ 江戸時代のコミュニティ |
| ウ | 自由を制限することの必要性 | エ つながりと、しがらみ |
| D | ア 明治以降の近代化 | イ 「お客さん化」する社会 |
| ウ | 農業社会から工業社会へ | エ すぐに対応する行政の実現を |

問三 空欄 e ～ i に入れるのに最もふさわしい語句を下の ア ～ エ から選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-----------|------------|---------|-----------|
| e | ア 収まれり | イ 極まれり | ウ 留まれり | エ 高まれり |
| f | ア おすそ分け | イ 山分け | ウ 仕分け | エ 形見分け |
| g | ア そして | イ ところで | ウ ところが | エ とはいえ |
| h | ア たとえは | イ ところが | ウ 加えて | エ というのは |
| i | ア しっかりと考え | イ 要望が多くあれば | ウ 意識変革を | エ あなたと一緒に |

問四 本文の内容にふさわしいものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 毎月マンションで孤立死が起こるのは、マンション管理会社の責任である。
- 2 人口が減少するのを何とか食い止めないといけない。
- 3 江戸時代が住民参加型社会だったのは、社会が未成熟だったからである。
- 4 江戸時代は住民参加型の時代だったが、それは必ずしも良い面ばかりではなかった。
- 5 「お客さん化」した住民に「すぐやる課」は役に立たない。

問五 波線部 J について、なぜ著者はこのように主張するのか、その理由を七〇字以内（句読点を含む）でまとめなさい。

II

問一 次の①～⑤の文について、傍線部の読みを平仮名で書きなさい。

- ① 刹那主義の生き方をする。
- ② 他の製品と比べて遜色がない。
- ③ 子犬を愛玩する。
- ④ 公の場で人を罵るのは良くない。
- ⑤ マスコミの好餌となる。

問二 次のことわざ①～⑤の空欄に入れる語として、最もふさわしい言葉を後のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ① 青菜に□
ア 水 イ 火 ウ 塩 エ 油
- ② □の威を借る狐
ア 狸 イ 蛇 ウ 狼 エ 虎
- ③ 弘法にも□の誤り
ア 口 イ 筆 ウ 身 エ 常
- ④ 人を呪わば穴□つ
ア 一 イ 二 ウ 四 エ 八
- ⑤ □□で首を締める
ア 借金 イ 荒縄 ウ 真綿 エ 忠言

問三 次の外来語①～⑤の意味として最もふさわしいものを後のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ① ナショナリズム
 ア 暴力主義 イ 民族主義 ウ 民主主義 エ 独裁主義
- ② ジレンマ
 ア 相手の行為に疑いを持つこと イ 感情の起伏が激しいこと
 ウ 二つの事柄の板挟みになること エ 変化に富むこと
- ③ ステレオタイプ
 ア 分かり易い説明 イ 共鳴する思想
 ウ 誰もがもっている常識 エ 型にはまった見方、考え方
- ④ メディア
 ア 媒体 イ 広告 ウ 芸能 エ 関係
- ⑤ アイロニー
 ア 反抗 イ 混濁 ウ 情調 エ 皮肉

問四 次の①～⑤の文について、傍線部の敬語に誤りがあれば×、無ければ○をつけなさい。さらに×の場合、例にならって適切な敬語表現に改めなさい。

問題例と解答例

(ホテル従業員が客に対して) 詳細は、フロントで伺ってくださいます。

例	×	お聞きください
---	---	---------

- ① (会社で部下が上司に) 私のレポート、拝見してくださいませんか。
- ② (観光案内所で職員が観光客に) どちらから参りましたか。
- ③ (会社で部下が課長に) 先週課長が申された新しい企画ですが、その後どうなりましたか。
- ④ (レストランで従業員が客に) どうぞ温かいうちにお召し上がりください。
- ⑤ (スーパーで販売員が客に) 今なら通常価格の10%引きでお買い求めになります。

国語解答用紙 (B日程)

I

⑥	①
泥棒	偏重
⑦	②
廃止	規模
⑧	③
干渉	掃除
⑨	④
懐(かしい)	窮屈
⑩	⑤
溜(まって)	格好

問二	A
	ウ
問三	e
	イ
	f
	ア
	g
	ウ
	h
	ア
	i
	エ

問二	A
	ウ
問三	e
	イ
	f
	ア
	g
	ウ
	h
	ア
	i
	エ

問四	1
	×
	2
	×
	3
	×
	4
	○
	5
	×

問五

た	な	化	自	明
か	歪	さ	由	治
ら	ん	せ	に	時
。	だ	た	し	代
	社	た	た	以
	会	め	反	降
	を	、	面	の
	生	孤	、	近
	み	立	人	代
	出	死	間	化
70字	し	を	関	は
	て	生	係	、
	し	む	を	生
	ま	よ	希	活
	っ	う	薄	を
				60字

II

問一	①
	せつな
	②
	そんしょく
	③
	あいがん
	④
	ののし(る)
	⑤
	こうじ

問二	①
	ウ
	②
	エ
	③
	イ
	④
	イ
	⑤
	ウ

問三	①
	イ
	②
	ウ
	③
	エ
	④
	ア
	⑤
	エ

問四	⑤	④	③	②	①
	○	○	×	×	×
			おっしやった	いらっしやいましたか	ご覧いただけませんか

※Iの問五、IIの問四①②③下段は解答例です。

小計

小計

小計

小計

小計

小計

小計

小計

小計

総計

受験番号